

母と子のマナー検定[®]

現在における日本の子供教育のあり方とその将来性には大きな問題があり、誠に憂慮せずにはいられません。子供の教育は、昔から「三つ子の魂百まで」と言われています。この意味は、幼児期の左脳機能は未開発なため、右脳機能（イメージ脳）が優位になっています。即ち幼児期には母親の言動のイメージが最も幼児の右脳から潜在意識に焼付きます。これが「三つ子の魂百まで」となるのです。それ故、胎児や幼児期の深い愛情が大切だと言われています。母親の子供へのイメージを改めるきっかけが最も必要になってきます。

平成25年8月6日の産経新聞の報道では、「小学生の9割がいじめ経験」とのことでした。これは、戦後の日本は欧米化に伴う経済至上主義の中で、先人の遺産である尊い精神文化や母性愛まで喪失してきた結果ととらざるを得ません。

装道では、50年に渡り和装礼法教育を中心に『装道は愛なり』を基本理念とする公認の女性「きものコンサルタント」を全国に十四万人養成してきました。このきものコンサルタントに求められるのは、人間の究極の理想である愛・美・礼・和の四徳による装道哲学とその普及に使命感を持ち、さらに殆どが「母親経験者」または「未来の母親」なのです。

そこで一般的に、いじめや暴力の子供が育つ原因即ち「子は親の鏡」であることに目を向け、あるいは高齢化時代の新たな女性の生涯の生き甲斐を兼ねて「良い子に育てるお母さん先生」としての使命感を加え更に幼児教育から青少年までの育成に母性愛と使命感を条件とすれば、未来の日本に大きな希望が持てるでしょう。尚且つ、誇りと責任ある国家検定の制度が実現されれば、より速やかに責任が果たせることになり、明確な目標や指導要領が策定されますことを鑑み、これまでの公益社団法人の「礼法・マナー検定」及び「きものコンサルタント」という資格に加え、新たな「お母さん先生」としての夢と生き甲斐の実現の検定として「母と子のマナー検定」を企画いたしました。

また、子どもが楽しんでマナーを学べ、同時に潜在意識の活用が出来て、「三つ子の魂百まで」となるように、「母と子のマナーかるた」を作成いたしました。

今日、50周年を節目として、今後は、国家百年の計である未来の素晴らしい子供・青少年達を積極的に育成しつつ、更に子供とともに新しいお母さんとの出会いを計り底辺の拡大を行って、国家的役割を担う活動を拡げて参ります。

装道創始者・装道会 会長
公益社団法人 全日本きものコンサルタント協会 会長
装道礼法きもの学院 会長
全日本マナー検定協会 会長

山中 典士



マナー検

良い子に育てるお母さんと
素直な良い子に育つための智慧

母と子のマナー検定[®] の ご案内

幼児用



公益社団法人 全日本きものコンサルタント協会 認定

全日本マナー検定協会

良い子のマナー検定

「良い子に育てるお母さん先生」へ 母と子のマナー検定への取り組み

テキストにある30項目の問題集のほかに、検定問題として50項目があります。問題を問い掛けにしているのは、一つの正解にこだわることなく、人と人がやさしく、仲良く美しく生きていくことの意味を、親子で一緒に考えて頂く事を願ってのことです。

装道創始者 山中 典士

母と子のマナー検定・例題

何故、マナーが必要なのか、 母と子で考えて下さい。

- 1 名前を呼ばれたら時は、「ハイ」と返事ができますか？
- 2 自分の間違いに気づいた時は、「ごめんなさい」と言えますか？
- 3 食事の前に手を洗っていますか？
- 4 授業中はきちんと席に座っていられますか？
- 5 お年寄りや障害のある人の手助けができますか？



お母さん先生のマナー検定

良い子に育てる、お母さん先生

我が子を褒めるお母さん

我が子に優しいお母さん

我が子のよい点を喜ぶお母さん

我が子が素直に親の言うことを聞いたときに
喜んでほめるお母さん

我が子が「自分は本当に幸福だ」と
言える子供を育てるお母さん

(「母と子のマナー検定ブック」から抜粋)

母と子のマナー検定ブックは 子供と一緒に学べる絵本のページも。



遊びを楽しみながら「母と子でマナーかるた」



かるたの絵や言葉を
ヒントにお母さんの
体験も披露してみては
いかがでしょうか。



検定受験料

母と子のマナー検定ブック、
母と子でマナーかるた、
検定問題、受験料を含むセット料金

母と子のマナー検定……2,000円
かるた……2,000円